

自己評価報告書

令和4年度 豊海幼稚園 自己評価報告書

学校（園）名：中央区立豊海幼稚園 所在地：中央区豊海町 3-1

校（園）長名：山口 晃司

園児数 151名

学級数 6学級

教職員数 20名

1 重点目標の達成状況及び取組状況

1 重点目標の達成状況及び取組状況

- { 1：十分達成している 2：達成している 3：改善を要する }
 { 4 早急に改善を要する 5：わからない }

重点目標 1 ○心身共に健やかな幼児を育む

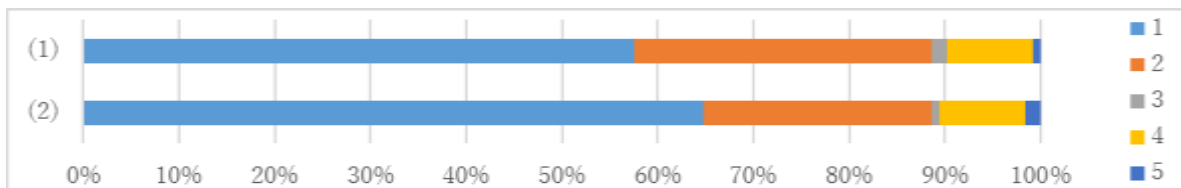
評価項目 ①幼児なりに身の回りの清潔を保ち、感染防止を意識するなど健康な生活が送れるような指導の工夫。

②園生活に安定感をもち、幼児自らが興味関心のあることに関わって遊び、楽しさや喜びを味わえるような指導の工夫

評価指標 (1)手洗い・うがい、黙食等の感染症予防や身の回りの始末等の生活に必要な習慣を園生活の中で身に付けられるように、発達段階に応じた指導を行っている。

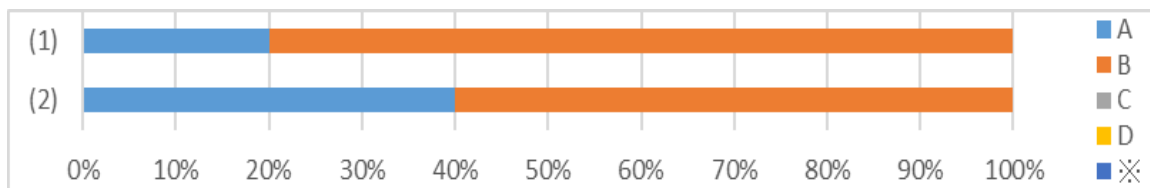
(2)体を動かす気持ちよさを感じることを通して、幼児自ら諸感覚を働かせて体を動かそうとする遊びの指導を行っている。

評価結果（保護者）



(1) 1：57.5% 2：31.1% 3：1.6% 4：9% 5：0.8%
 (2) 1：64.8% 2：23.8% 3：0.8% 4：9% 5：1.6%

評価結果（教員）



(1) 1：20.0% 2：80.0% 3：0% 4：0% 5：0%
 (2) 1：40.0% 2：60.0% 3：0% 4：0% 5：0%

「十分達成している」「達成している」を合わせると、およそ89%以上の評価であった。

重点目標1に関しては、十分達成できたと捉える。新型コロナウイルス感染症対策として、手洗い・うがい身の回りの始末等の健康に必要な基本的な生活習慣について、重点的に働き掛け、よい習慣を身に付けられたことは、保護者の理解を得られ、評価につながったと考える。

重点目標 2 ○身近な環境に自ら関わり様々な活動を楽しむ幼児を育む

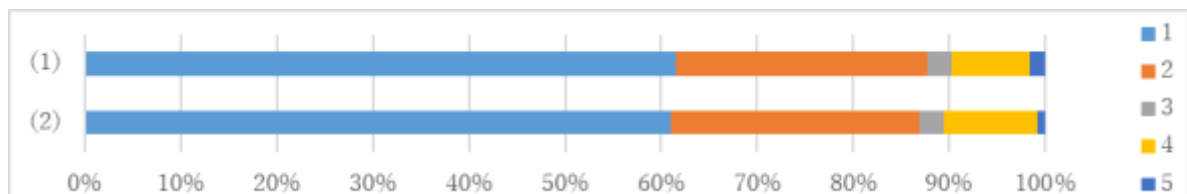
評価項目 ①園生活の中で、幼児が様々な環境に興味や関心をもって関わり、楽しさや面白さを実感できるような指導の工夫

②幼児の遊びの広がりや深まりが図れるよう、発達に応じた教材提示や開発の工夫

評価指標 (1)幼児の遊びや活動の経験内容を捉えた、環境を構成し指導をおこなっている。

(2)遊びは幼児期の学習であることを認識し、教材を提示・開発して遊びの充実を図る指導を行っている。

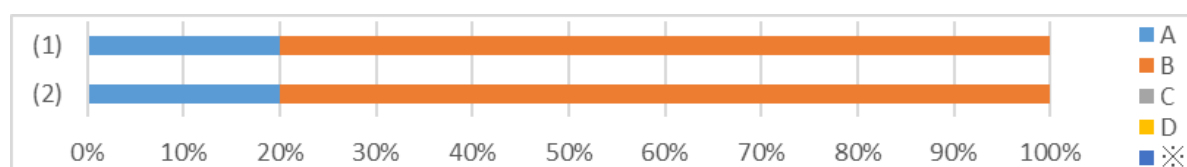
評価結果 (保護者)



(1) 1 : 61.5% 2 : 26.2% 3 : 2.5% 4 : 8.2% 5 : 1.6%

(2) 1 : 61.5% 2 : 26.2% 3 : 2.5% 4 : 9% 5 : 0.8%

評価結果 (教員)



(1) 1 : 20.0% 2 : 80.0% 3 : 0% 4 : 0% 5 : 0%

(2) 1 : 20.0% 2 : 80.0% 3 : 0% 4 : 0% 5 : 0%

「十分達成している」「達成している」を合わせると87%以上の評価であった。
 保育における遊びの充実のための環境構成や教材の開発については、幼児が自分たちで身近な環境に関わり考えて取り組むための、環境を工夫した。また、PDCAサイクルの充実を図り、幼児の実態に合わせた教師の援助と環境の工夫を行った。
 これからの課題としては、「みんなのへや」のさらなる有効活用や本園の特色である豊かな自然環境を生かしての工夫をしていくことが挙げられる。

重点目標 3 ○身近な自然との関わり、食育活動等、豊海の特徴ある教育を推進

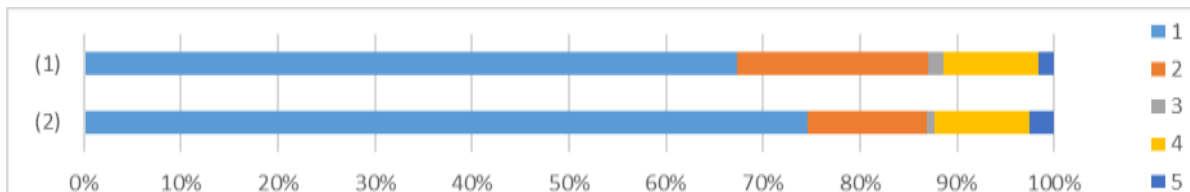
評価項目 ①豊海幼稚園の園内外の身近な自然と触れる体験を通して、四季の変化を感じ、好奇心や探究心をもって遊びや活動が充実するような指導の工夫

②健康な体と心を育てるため、季節に応じた野菜を栽培し、収穫して食べるという一連の活動を通して、食への興味や関心を高める指導の工夫

評価指標 (1)園内外の身近な自然に触れることで、自然への気付きや事象について関心をもち、遊びや生活の充実を図る指導を行っている。

(2)季節に応じた野菜を育てて食べる一連の活動や教師や友達と一緒に食べる経験を通して、食への興味や関心を高める指導を行っている。

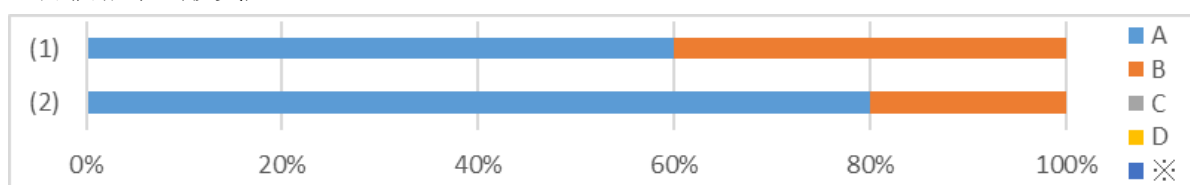
評価結果（保護者）



(1) 1 : 67.3% 2 : 19.7% 3 : 1.6% 4 : 9.8% 5 : 1.6%

(2) 1 : 74.6% 2 : 12.3% 3 : 0.8% 4 : 9.8% 5 : 2.5%

評価結果（教員）



(1) 1 : 60.0% 2 : 40.0% 3 : 0% 4 : 0% 5 : 0%

(2) 1 : 80.0% 2 : 20.0% 3 : 0% 4 : 0% 5 : 0%

重点目標3についても、「十分達成している」「達成している」を合わせると87%以上の評価であった。教職員の評価は、重点目標3の評価が特に高い。

今年度の園内研究を、「身近な自然との関わり」を切り口として取り組んだことで、幼児が身の回りの自然の変化や事象に対してのたくさんの気付きや思考する姿が見られた。また、PTAを中心としての保護者ボランティアの積極的な協力があり、栽培活動や収穫、会食等の食育が充実したことも、要因として挙げられる。来年度も、今年度の取組を生かしながら、さらに充実を図っていきたい。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

ほとんどの項目において、「よくあてはまる」「あてはまる」を合わせると94%以上の数値であった。

設問14の「幼児は好き嫌いをせずに、様々な食材を食べている。」では、「よくあてはまる」が24.6%「あてはまる」35.2%、「あまりあてはまらない」29.5%、「あてはまらない」10.7%であり、昨年同様幼稚園の教育に対しては評価をしているが、我が子を姿からは、課題を感じていることが分かった。さらに園での教育活動を家庭生活につながるよう啓発をもっとしていく必要性を感じた。

今まで課題として挙げていた項目の中で、評価が高かった項目は、設問7の「幼稚園で規範意識を身に付ける」99.2%、設問10の「幼稚園は幼児の安全を守る取組を進んでいる」99.2%と、今まで課題として挙げていた項目であったが、評価が高かった。これからも子供たちのために、幼稚園、保護者、地域でつながって協力し合えるように、幼稚園教育を推進していく。

3 課題と方策

- ・今年度学級数、園児数の減少から、人数が少ないからこそできる保育の工夫を行った。同学年、異年齢児との遊びを通しての自然な交流が盛んになり、互いに育ち合う姿が見られた。来年度も、空き保育室の有効活用や、環境の充実を図っていく。
- ・今年度 PTA の積極的な協力を得て、飼育栽培、食育の充実をすることができた。来年度も感染対策を講じながら、保護者、地域の教育力を取り入れながら教育活動を展開していく。また、よりつながりを深めるために、ICT 機器の活用の工夫や、園での教育活動を家庭教育につなげるための発信の工夫を図っていく。